

全国民間保育園経営研究懇話会

経営懇ニュース 9月号 (No.237)

2023年9月8日

162-0837 東京都新宿区納戸町 26-3 保育プラザ 3F Tel03-6265-3174 Fax03-6265-3184 gsp10404@nifty.com

経営懇役員リレーエッセイ

『新たな発見！褒めてもらってうれしい！』

細見玲美（京都・（福）くわの実つむぎ会）

保育士確保に頭を痛めている中、経営セミナーで他法人の取り組みを聞き、「できることはなんでも取り組む」と、次々と就職フェアに参加しています。申込みをしてみると『動画 20 秒』の提出が必要でした。動画編集はしたことないし、園としても動画を発信したこともない。「困った・・・困った・・・」と抱え込んでいるうち気がつくのと、締切まであと 5 日に迫っていました。

誰に相談しよう・・・考えた挙げ句、介護施設を経営している卒園保護者を思いつきました。彼の Facebook から、お年寄りの生き方に寄り添い、今を大切にしている介護に共感していました。介護も保育も「人間を大切にシケアする仕事」は同じです。

「私が動画送ったら編集してくれますか？」とお願いすると「いいですよ。でも、若い職員の方が上手なんですよ。」という返事（39 歳の彼が、「若い職員」とは・・・）。それで、2 年目保育士ふたりに相談することにしました。すると「やってみます！」「私、動画編集好きです。」という返事。日にちもないし、そんなに快く引き受けてくれるとは思ってもよらず・・・ありがたい！

私が動画を撮り、彼女らが編集。子ども達の動画の上に保育士向けのメッセージを入れました。メッセージは、彼女らに任せました。夜にラインでやりとりし、期日までに完成。そのメッセージが自分の言葉でいいのです。

「うまくいかないことがあっても応援してくれる先輩たち！」

「子ども達の笑顔に癒やされて 疲れなんて吹き飛びます」

「楽しく働きたい方は、ぜひ遊びに来てね」

「等身大で悩みを聞いてくれる先輩たちがたくさん！！！」

「しんどくても、子どもと笑いあって吹き飛ばします」

「保育士の笑い声が響く保育園です」

「仕事の中に癒やしがあるってしあわせ！！」

19 秒に編集された動画。ワンシーン 3 秒程度で次々シーンが変わります。前後はわからないけど、子どもの表情に迫ってみると『毎日が楽しいから、こんな表情になるんだ』と見えてきます。私の『動画先生』とも、「動画を撮ることで、もっと利用者さんの笑顔を増やしたいと、現場のクオリティが変ってきました」と語り合っています。

それから、私も動画編集の技術を磨こうと挑戦。私が編集した動画を 21 歳のふたりが褒めてくれました。

「褒めてもらえてうれしい！」とラインのやり取りをしています。



保育をめぐる情勢

●2024 年度概算要求～大幅な予算増なし！？

来年度の概算要求が示されました。こども家庭庁としては、全体で4兆8,885億円の要求額になっています。今年度と比べ、781億円増額ではありますが、全体の規模からいえば、ほぼ変わらない要求額です。

令和6年度 こども家庭庁予算 概算要求の全体像

(単位: 億円)

区 分	令和6年度 概算要求額	【参考】 令和5年度予算額
一 般 会 計	15,271	14,657
うち社会保障関係費	15,168	14,560
年金特別会計 (子ども・子育て支援勘定)	33,614	33,447
合 計	48,885	48,104

【計数整理の結果、異動を生ずることがある。】

このうち、『こども未来戦略方針』で示された「こども誰でも通園制度」と、配置基準の改善・保育士の処遇改善については、要求額が示されていません。予算編成過程において、各事業の内容の具体化の取扱いについて検討する必要があるため、事項要求とする、とされています。

◆こども家庭庁概算要求の構成

こども家庭庁の来年度予算は下記の4つの柱に沿って構成されています。

- ① こどもの視点に立った司令塔機能を発揮する
- ② 結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会を実現し、少子化を克服する
- ③ 全てのこどもに、健やかで安全・安心に成長できる環境を提供する
- ④ 成育環境にかかわらず誰一人取り残すことなく健やかな成長を保障する

保育については、「③全てのこどもに、健やかで安全・安心に成長できる環境を提供する」の中に盛り込まれています。

◆こども誰でも通園制度の検討会、立ち上げを予定

小倉こども政策担当大臣は、8月25日の記者会見で、こども誰でも通園制度について、検討会を立ち上げることを明らかにしました。

・2024 年度から制度の本格実施を見据えた形で行う試行的事業の実施の在り方について議論する（制度の意義、事業実施の際の留意点、施設・事業累計毎の事業実施のイメージなど）

・検討会の構成員は、学識経験者、保育所や幼稚園の関係者、自治体関係者ら約20人（保育三団体からは日本保育協会が代表として参加とのこと）

・9月中に検討会を立ち上げ、12月に中間とりまとめ、来年3月にとりまとめの予定。

◆予算編成過程で検討～検討に向け、国会請願署名を広げ、国会に実態と要望を届けよう

このように、配置基準や処遇の改善については、予算の編成過程で検討されることから、秋の国会に現場の実態や要望を届けることが重要になってきます。

「よいよい保育を！実行委員会」として2023年度の国会請願署名運動が始まりました。この署名を各地で広げ、地元選出国會議員を通じて国会に届けるとりくみが、今このタイミングで重要になっています。署名用紙を同封していますので、各法人・園でも、職員・保護者で保育をめぐる状況を確認し、署名への協力を呼びかけましょう。

令和6年度 こども家庭庁予算 概算要求のポイント

1. こどもの視점에立った司令塔機能の発揮

- **こどもみんなが社会の実現**
 ▶ こども・若者の意見聴取と政策への反映
 ▶ こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革
- **こども政策DXのための基盤強化やこどもデータ連携の推進**
 ▶ こども政策DX見本市開催事業
 ▶ こどもデータ連携に係る実証事業
 11億円 (5億円)
 8億円 (－億円)

2. 結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会の実現、少子化の克服

- **地域の実情や課題に応じた少子化対策**
 ▶ 地域少子化対策重点推進交付金
 30億円 (10億円)
- **妊娠前から子育て期の包括的な切れ目のない支援**
 ▶ 妊娠時から出産・子育てまで一貫した伴走型相談支援と経済的支援の着実な実施 (※)
 ▶ 産後ケア事業の実施体制の強化、乳幼児健診等の推進、プレコンセプションケアを含む成育医療等の提供に関する研究、相談支援等の推進 (※)
 ▶ 母子保健のデジタル化の推進
 790億円+事項要求 (532億円)
- **高等教育の無償化**
 ▶ 高等教育の修学支援新制度の実施 (※)
 5,311億円+事項要求 (5,311億円)

3. 全てのこどもに、健やかで安全・安心に成長できる環境を提供する

- **総合的な子育て支援**
 ▶ 子ども・子育て支援新制度の推進 (※)
 ▶ 保育の受け皿整備・保育人材の確保・保育現場のICT化等
 ▶ こども誰でも通園制度 (仮称) の本格実施を見据えた形での試行的実施 (※)
 ▶ 「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的な指針 (仮称)」策定後の具体的な取組推進
 3兆4,360億円+事項要求 (3兆4,115億円)
 2,100億円の内数+事項要求 (2,083億円の内数)
- **地域の子ども・子育て支援、こどもの居場所づくり支援の推進**
 ▶ 放課後児童クラブの受け皿整備の推進等 (※)
 ▶ 改正児童福祉法の施行に伴うこども家庭センターの設置や地域子育て相談機関の整備、新たな家庭支援事業等の推進 (※)
 ▶ こどもの居場所づくり支援の推進 (※)

(注1) ※は、「令和6年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」を踏まえた事項要求を含む。

(注2) 母子保健のデジタル化の推進などデジタル庁一括計上予算を含む。

【計数は令和6年度概算要求額、() 内は令和5年度当初予算額】

- **こどもの安全・安心**
 ▶ こども関連業務従事者の性犯罪歴等確認の仕組み (日本版DBS) の構築を円滑に進めるための体制等の整備 (※)
 31億円の内数+事項要求 (27億円の内数)

4. 成育環境にかかわらず誰一人取り残すことなく健やかな成長を保障する

- **改正児童福祉法の円滑な施行等による児童虐待防止対策・社会的養護の充実**
 ▶ 親子関係再構築支援の充実、社会的養護経験者等の自立支援拠点の整備等
 ▶ 里親支援の体制強化、「こども家庭ソーシャルワーカー」の取得促進等 (※)
 ▶ 社会的養護の下で育ったこどもの自立支援に向けた学習環境整備の強化 (※)
 ▶ 児童相談所におけるICT化の推進
 1,742億円の内数+事項要求 (1,691億円の内数)
- **ひとり親家庭等に対する支援の推進**
 ▶ 高等職業訓練促進給付金の対象資格の拡大、養育費に関する相談支援や取り決めの促進 (※)
 ▶ ひとり親家庭等のこどもの食事等支援
 1,662億円+事項要求 (1,665億円)
- **ヤングケアラーなどの困難な状況にあるこども・家庭に対する支援**
 ▶ 進路やキャリア相談を含めた相談支援体制の構築等
 209億円の内数 (209億円の内数)
- **障害児支援体制の強化**
 ▶ 良質な障害児支援の確保
 (注) 障害報酬改定については、予算編成過程において検討。
 ▶ 児童発達支援センターの機能強化、医療的ケア児等への支援の充実等 (※)
 5,030億円の内数+事項要求 (4,813億円の内数)
- **こどもの自殺対策やいじめ防止対策の強化**
 ▶ 「こどもの自殺対策強化プラン」に基づく取組の推進
 ▶ 学校外からのアブローチの開発・実証等によるいじめ防止対策の体制構築
 3億円 (2億円)

「こども未来戦略方針」に盛り込まれている施策のうち、高等教育費の更なる支援拡充策、今後「こども大綱」の中で具体化する貧困、虐待防止、障害児・医療的ケア児に関する支援策について、今後の予算編成過程において施策の拡充を検討。

会員のみなさんへ アンケートのお願い

全国経営懇調査研究部が実施するアンケートについてお願いです。

事務職員配置にかかわる アンケートのお願い

*アンケートのお願い主旨

保育園の公定価格には事務職員の配置はなく、事務職員雇上げの加算があるだけです。昨年度の内閣府・厚生労働省との懇談でも要望しました。今年度は10月末に、1回目の国との懇談を計画しています。今回は全国民間保育園経営懇話会会員園520ヶ園のアンケートを実施し、自治体による補助金の実情を調査すると共に、事務業務の実態をつかみ、よりリアルな数字を示しながら事務職員配置にかかわる要望をしていきたいと考えています。

保育園も事業所であり、職員を雇用している以上事務業務はあります。公定価格の事務職員雇上げ加算だけでは不十分です。また、園児に関わる事務・補助金関係などの事務業務も年々増えており、事務職員の配置を求める声は大きくなっています。事務職員の配置ができず、園長が事務業務を担わざるをえない保育園等では、園長や主任に大きな負担がかかっています。

このアンケートに答えて頂き、国にリアルな実態を届け、事務職員配置に向けた改善を実現していきましょう。

*2種類のアンケートにお答え下さい。

(5分程度で回答頂けます。)

1. ひとつめは、施設運営のアンケートです。
2. ふたつめは、法人運営の事務についてのアンケートです。

*アンケートの送付・回答

全国民間保育園経営懇話会調査研究部より、各施設にエクセルのアンケートをメールにて送ります(アンケート用アドレスにて)。回答は、送られたアドレスに返信して下さい。

※アンケート用アドレス↓

hoiku.keieikon1998@gmail.com

*締切り 9月末日

*回答の注意事項

- ①保育園等の施設ごとに、1枚のアンケートに答えてください。(1～5)
- ②設問6～8については、複数施設をもつ法人の場合、法人内の1施設で答えて下さい。
- ③施設事務配置の勤務時間は、実際に事務業務を行っている時間を記載して下さい(保育や給食など、他の業務時間は除いた週の事務業務時間)。
- ④施設事務について：園長や事務職員など、複数で担当している場合は、「主に作業している者」を記載して下さい。
- ⑤法人本部業務について：複数で担当している場合は、「主に作業している者」を記載して下さい。

全国民間保育園経営懇話会 調査研究部



各地の動き・活動

●「子どもの権利条約と保育」～大宮勇雄さんを招いて／神奈川経営研

神奈川民間保育園経営研究会（神奈川経営研）では、7月11日に学習会を開催しました。対面の活動ができない中で、神奈川経営研の活動も停滞していたため、学習会を開催し合わせて、2年ぶりに総会を開催することにしたものです。

テーマとして「子どもの権利条約と保育—子ども達の発達保障する保育を現場から考え創り出していくために—」をきっかけ、大宮勇雄さんにお話しいただきました。

今回の開催の呼びかけに、計35名の参加者があり、学習会での質問も含め、総会での意見交換が活発に行われました。活動再開の起爆剤として有意義な学習会となりました。

●東海北陸ブロック経営懇、第2弾学習交流会を開催

東海北陸の経営懇会員園が交流する場として、昨年度学習交流会を開催しました。今回は、7月3日に第2弾の学習交流会を開催しました。

第2弾のテーマは、『子どもが「大事にされている」実感をもつ保育を～保育を創りだすための職員集団づくりを考える～』。各地からの報告（園長3名）とグループ交流を行い、まとめとして平松知子さんにお話しいただきました。

とりくみの経緯

4月27日に、東海北陸ブロック経営懇世話人会を開催し、先回の立ち上げ学習会の反省から、今回どんなテーマで、どのように行うか検討し、日程とテーマ、報告者、役割分担等を決定しました。

5月には、案内チラシの作成と配布、報告者への依頼等を行いました。6月には、参加申込者に、ZOOMのID等と資料をメールでお送りし、グループ分けや各グループの司会・報告者の依頼等の準備をすすめました。

当日の様子～67名が参加！

当日は、岐阜・福井・石川・三重・静岡・愛知の6県から67名の参加となりました。

地域からの報告では、愛知・けやきの木保育園園長の和田亮介さん、福井・ゆきんこ光陽こども園園長の松本美栄子さん、岐阜・こぼと保育園園長の村松篤さん、の3名が報告しました。内容は、

- ・職員同士の関係づくり
- ・育休産休を支えるパート職員も疲れている
- ・若い職員にも実感と手ごたえを保障したい
- ・非正規・パート職員とも共に学び保育したい
- ・保育以外に目が向かなくなっている
- ・ゼロ歳児の入所がゼロ、経営が厳しい状態に
- ・理事会と現場と理解しあって運営するのが難しい状況、法人運営に悩んでいる

などなど、園での課題や悩みが報告されました。

報告を受けて、

○職員集団作りの取り組みの工夫

○定員割れが全国で起きている中で、今後職員たちとどんな目標をもっていくのか

上記の2点を柱にグループ交流を行いました（13グループで交流）。

感想より

★報告はそれぞれの園（法人）の状況が大変分かりやすく、特に認定こども園について普段はほぼ意識していないことだったため、国の方向性でもあるのであれば決して他人事ではないと危機感をおぼえました。大きなことを民主的に決めていくには、日常の中でその風土がなければならぬと改めて思いました。熱田福祉会さんの「あったか方針」に足掛け3年…という言葉にとっても励まされました。自分の

法人が全然進んでいない気がして気持ちだけ焦ったり、投げやりにもなりがちでしたが、「うちの法人で時間がかかるのは当たり前。いまの職員集団に合った働きかけって何だろう」と思い直しました。今回のような場でたくさんヒントをいただけたので、それを法人内で共有して活かしていきたいと思いました。平松先生の温かな視点にも励まされます。法人の中で温かさを感じられるよう意識して取り組んでいきたいです。

★今回『職員の集団づくり』の視点からの子どもが大事にされる実感を持つ保育づくりというテーマで、ぜひ参加したいと思い、参加しました。

各園長さん、主任さんの赤裸々なお話、同じように悩み、揺らぎ、それでも願いは持ち続けておられる話にとっても力をいただき、新たな視点や工夫处をもらえました。こばと保育園の村松園長のお話では、胸が苦しくなるようなお話でした。同じ方向を向けない中で、財政的な難しさをどう考えていくかというところでは、本当に難しい問題だと感じました。目の前の子どもたちの健やかな明日を守りたい思いと財政的な問題をどう結び付け、考えあうか、矛盾も感じながらも、やはり公的に守っていかなくてはいけないと強く感じました。こういう現状がある園があることを埋もれさせてはいけないなと感じます。しかし、村松さんがおっしゃっていたように、職員みんなが「ここの保育を守りたい」と願いを一致できたことは心強いし、それこそ保育士の集団力があるからこそだと感じました

★園長先生の報告やグループ討論を通じて、みなさんが悩みながらも頑張っている様子をする事ができて、元気をもらいました。また、園長だけでなく主任の参加もあり、立場や役割は違うけれど、より良い集団づくりのために何をしていくといいのかを一緒に考えられる場があるもいいなとおもいました。経営懇の取り組みは、なんとなく経営者（施設長）が参加するというイメージが大きかったですが（我

が法人では、主任も経営懇の集會に意識的に参加していますが）、集會以外の学習会へも、主任が参加できるようにしていければと思いました（体制があるかどうか大きいですが）。主任が参加しやすい次世代の施設長を育てていく学習会があるといいなと思いました。

★新人園長先生方の話は自分を振り返る良い機会でした。「押し付けないようにしよう」「良いところを認めよう」と思っているのに、そうになっていなかったのではないかな。職員の自主性や自分が主体となった実感や、それを引き出すような働きかけが、子どもには意識しているのに、職員にも必要ですね。

今年度就職した職員の歓迎会をすることができました！「なぜ同僚とプライベートな時間をすごさなくてはいけないのか？」という職員に声をかけるのは勇気がいることで、どうせ参加してくれないのでは？と躊躇していたようですが、参加しやすい勤務時間になるよう工夫してあげた様子。私が遅番を引き受けたのですが、爆笑が聞こえてきたので、楽しい時間が過ごせたようです。いろんな試みをしながらわかり合っていきたいと思います。

★職員の集団作りということで、報告を聞かせていただきました。コロナ禍を経験し、さらに若い職員との関係づくりに難しさを感じていました。けやきの木保育園さんの、勤務時間内に交流できる時間を保障するというのは、子育て世代の職員や、パート職員の方も出やすいのでいい取り組みだなと参考になりました。私は、園長1年目で経営の事も「0歳児が入ると運営費がどれくらい違うのか」ということもまだ実感できていない、「経費はどのくらい使っても大丈夫なのか」と不安になってしまうというのが現状です。なかなか主任の感覚が抜けないのですが、立場によって「視野が変わっていく」というのは今の自分の課題でもあります。

経営懇のといくみ

●9.26 緊急シンポジウムを開催します

6月に閣議決定された「こども未来戦略方針」には、75年ぶりの配置基準改善の言葉が明記されました。この未来戦略方針を受けて、骨太方針でもこども政策の抜本強化があげられました。

こうしたことはこれまでの運動の成果として確認していききたい点ですが、これで安心というわけにはいきません。配置基準改善を、いつから、どのように実施するのか、処遇改善はどのように進めるのか、等具体的なことがまったく見えないからです。一方で、「こども誰でも通園制度」は2024年度から本格実施に向けて試行的に実施する・そのための検討会を行う、と具体的に動いています。

今回のこども未来戦略方針や骨太方針をどう考えるか、研究者の方々の力もお借りして、学び考える機会として、緊急シンポジウムを開催します。ぜひご参加下さい。

日時:2023年9月26日(火)10:00~12:30

会場:Zoom&保育プラザ

参加費:3,000円(会員外4,000円)

テーマ:真の「こどもまんなか」を実現するために保育園等の新たな役割を考える

講師:杉山 隆一氏(大阪保育研究所)

伊藤 周平氏(鹿児島大学)

中山 徹氏(奈良女子大学)

進行:石井一由記(愛知・(福)新瑞福祉会)

※申込方法・申込み先等、詳細は同封の案内書をご覧ください。

●主任セミナー2023 今回は対面のみでの開催 集まって学び語いましょう!

今年度の主任セミナーは、愛知県で開催します。愛知の主任さんで実行委員会をつくり、準備を始めています。

コロナ禍でオンライン開催を余儀なくされてきましたが、今回は、完全対面で開催することを経営懇として決断しました。

現場の体制の厳しさ等もありますが、その場に集まり、五感をフルに活用して学び交流できるセミナーにしたいと、実行委員会でも話されています。ぜひ、ご参加下さい。

日時:2023年11月16~17日(木~金)

会場:ロワジールホテル豊橋(愛知県豊橋市)

内容は現在準備中

参加費:8000円(予定)

宿泊費・夕食代等、調整中です。

*10月初旬ごろ、案内書をお送りする予定です。

●全国経営懇の相談窓口

法人や園の運営・経営について、相談したい…そんな要求に応じて、相談窓口を開設します。相談員は、元副会長の原田秀一さんです。お気軽にご連絡ください。

○相談アドレスに

①法人名・施設名・お名前・電話番号

②相談内容(簡単にまとめて)

を記入し送信してください

○メールで回答できる場合はメールで、電話等での相談が必要な場合は相談日時等をメールでお伝えします。

○相談アドレス

haradanchi@gmail.com

お知らせ

●緊急シンポジウム

日時：2023年9月26日（火）10：00～12：30

会場：Zoom&保育プラザ

参加費：3,000円（会員外4,000円）

*申し込み締切 9月13日（水）

参加費の入金をもって、申込みとします。

参加者名・資料送付先を必ずお知らせください

*振込用紙に記入、またはFAX・メールで連絡を

●主任セミナー2023

日時：2023年11月16～17日（木～金）

会場：ロワジールホテル豊橋（愛知県）

参加費：8000円（予定）

宿泊費・夕食代等、調整中です。

*10月初旬ごろ、案内書をお送りする予定です。

【経営懇・活動日誌】8月

○8月7日（月）三役会。当初は事務局会議の予定だったが急ぎょ三役会に変更。

○8月21日（月）役員会。夏季セミナーに向けて報告者を確認。緊急シンポジウムについても確認する。

○8月21日（月）役員会終了後、研修部会。
1月のセミナーに向けて検討を始める。

○8月24日（木）組織部・組織検討PT。

○8月26日（土）第55回常任実行委員会・全保連常任幹事会。合研の中間的な総括を行う（録画配信中なので）。9月30日全国実行委員会への意見集約に向けて論議。常幹では、国会請願署名を中心とする秋のとりくみについて論議。

○8月31日夏季セミナー申し込み締切。

●新刊『あそび込む保育をつくる 実践から探る「保育の知」』

『ちいさいなかま』の連載に加筆し、1冊にまとめました。著者・田中浩司さんは、合研集会の企画委員や、東京都保育問題協議会の会長を務め、保育運動にも関わりながら、研究を続けておられます。

本書では、次の2点を大きなテーマにしています。

●保育者の迷いや悩み、そして時には失敗も含めて、実践をとらえるということ。

●なにか特別な保育方法を示すのではなく、
保育者が日頃行っている実践の中に、
「保育の知」を見出すということ

このテーマのもと、保育現場での具体的なエピソードをたくさん盛り込んでいます。

この本が、保育を語り合うきっかけになれば…との
田中さんの思いもこめられています。



同封資料

- ①9.26 緊急シンポジウムご案内 締切がすぐ！早めに申込みを！
- ②2023 年度国会請願署名 1枚3円（送料実費）でお送りします
- ③「あそび込む保育をつくる」新刊ご案内

保育実践の研究会・学習会
の講師としても活躍中です